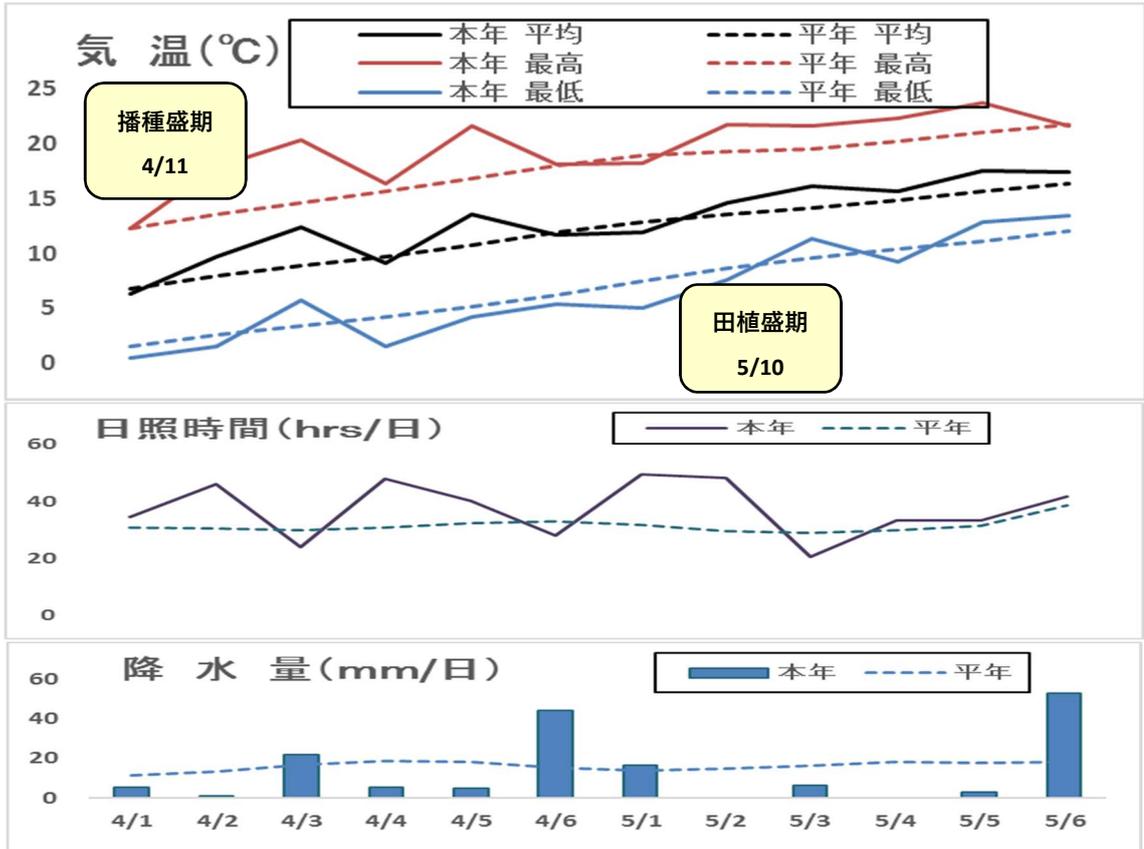


～田植後は高温傾向で推移し、活着及び初期生育は概ね平年並み～

1 令和4年の気象 (古川アメダス)



◆6月2日発表 東北地方の1か月予報(6月4日～7月3日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多い。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間のはじめは、気温がかなり低くなる見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率20%、平年並み若しくは低い確率20%。
- ・降水量は、多い若しくは少ない確率30%、平年並みの確率40%。
- ・日照時間は、多い若しくは少ない確率30%、平年並みの確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 06/04～07/03	40 (低)   40 (平)   20 (高)
		1週目 06/04～06/10	80 (低)   10 (平)   10 (高)
		2週目 06/11～06/17	30 (低)   50 (平)   20 (高)
		3～4週目 06/18～07/01	20 (低)   40 (平)   40 (高)
降水量	東北地方	向こう1か月 06/04～07/03	30 (低)   40 (平)   30 (高)
日照時間	東北地方	向こう1か月 06/04～07/03	30 (低)   40 (平)   30 (高)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2 播種・田植状況

### (1) 播種期（5月9日現在）

- ・播種始期は平年並みの4月2日、盛期は平年並みの4月11日であった。終期は平年より1日遅い4月22日であった。
- ・県では、近年の茎数過剰傾向や登熟期の高温障害回避を踏まえ、田植えを遅くする「晩期栽培」を推進しているが、概ね平年並みの播種時期となった。

#### 播種期(県全体)

区 分	播種始期 (5%)	播種盛期 (50%)	播種終期 (95%)
本 年	4月2日	4月11日	4月22日
前 年	4月2日	4月10日	4月22日
平 年	4月2日	4月11日	4月21日
平年差	並	並	1日遅い

### (2) 田植進捗状況（5月26日現在）

- ・田植始期は平年より1日早い5月3日、盛期は1日早い5月10日であった。終期は平年並みの5月22日であった。5月第2半旬以降、高温傾向であったことと、育苗中の障害発生が少なかったことから、田植えが順調に進んだためと思われる。
- ・年次別に見ると、調査日の違いはあるものの、ほぼ平年並みの進捗率と思われる。

#### 田植状況(県全体)

区 分	田植始期 (5%)	田植盛期 (50%)	田植終期 (95%)
本 年	5月3日	5月10日	5月22日
前 年	5月4日	5月11日	5月21日
平 年	5月4日	5月11日	5月22日
平年差	1日早い	1日早い	並

#### 田植進捗率の比較

区 分	調査月日	田植進捗率(%)
R4	5月6日	19.8
R3	5月6日	18.9
R2	5月7日	22.1
R1	5月7日	23.6
H30	5月7日	28.4
H29	5月8日	30.7

## 3 生育状況（6月1日）

- ・草丈は、23.2cmで平年比99%である。
- ・茎数は、㎡当たり116本で平年比105%である。
- ・葉数は、5.4枚で平年並みである。

#### 6月1日 生育調査ほ 県平均値(ひとめ+ササ n=18)

県平均値	草 丈		茎 数		葉 数	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	平年比 (%)	本 年 (枚)	平年比 (枚)
	23.2	99	116	105	5.4	0.0

※平年差比は過去5か年平均値(平成29～令和3年)より算出

## 4 今後の管理

### (1) 適正な生育量確保

- ・活着後は水深3 cm程度の浅水管理を基本とし、低温の日は5～6 cmの深水で保温して、茎数を確保する。東北地方の1か月予報によると、1週目は気温がかなり低くなる見込みなので、水管理を徹底する。
- ・生わらや未熟堆肥を施用した水田では、一時落水等でガスの発生や土壌還元による生育抑制を防ぐことが必要である。

### (2) 雑草防除

- ・中期除草剤は、使用時期の幅が狭く、水稻やノビエの葉齢に制限がある剤が多いので、ラベルをよく読んで処理する。
- ・薬剤の選定、使用にあたっては、最新の農薬登録情報を確認する。
- ・除草剤を使用する際は、止水期間を1週間程度とすることが効果のポイントである。
- ・ノビエやイヌホタルイなどが残草すると、斑点米の原因となるアカスジカスミカメが水田内に侵入し産卵するので、防除を徹底する。
- ・直播栽培では、苗立ちが確保されたら時期を逃さず湛水して除草剤を散布する。

### (3) 病害虫の発生と防除

- ・本田での「いもち病」の発生源となるため、補植終了後は速やかに苗を除去し、裏返す等、適正に処分する。
- ・飼料用米や直播栽培など、箱施用剤を使用していない場合は、各種水面施用剤を適期に散布する。
- ・イネミズゾウムシの「発生時期は平年よりやや早い5月第6半旬」で、「発生量は平年よりやや多い」と予想されている。また、イネドロオイムシの「発生時期は平年並みの6月第3半旬」で、「発生量は平年並み」と予想されている【宮城県病害虫防除所発行 発生予報第3号より】。



【イネミズゾウムシ】



【イネドロオイムシ】



【苗いもち】